

聖霊による愛の宣教を

日本ペンテコステ協議会

議長 **細井 眞**

(日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 理事長)



東日本大震災以来、社会が大きく揺さぶられ、日本における霊的状況は大きく変化しました。これに伴い宣教方法も見直しを迫られました。隣人を愛することを通して、神の愛を掲げていく方法です。まだ、大収穫を目にしていませんが、その兆しを見ることができます。

さて、昨年8月に行われました当教団の世界大会（米国AG100周年記念大会）には、120カ国から7000人が集まり、「主は働きをまだ終えられていない」をテーマに恵みの時を持ちました。そこで、世界 AG はここ50年の間に6530万人が加えられ、340,638教会が加えられたとの報告がなされました。設立当初からの50年間の統計が220万人、25,467教会ですから、単なる右肩上がりの成長ではなく、指数関数的な成長といえることができます。——ここで、教団自慢をするつもりはありません。ビジョンを共有したいのです。——近年、救霊の働きが世界でさらにその速度を増しているということです。テレビのメジャーチャンネルでも取り上げられているように、キリスト教世界の拡大は欧米社会からアフリカ、南米に移行し、さらにアジアで顕著に見られるようになっているのです。

そして、今日本は祈りのムーヴメントが起こり、宣教の業が多角的になされ、収穫の恵みに与っています。もちろん、被災地にも継続的に愛の手が伸べられています。私たちは、みことばを基として、篤き祈りと賛美をささげ、油注ぎを受けて、聖霊さまとともに必要な人々に神の愛を届ける者となりましょう。

広がり (エゼキエル 47 : 1 ~ 9)

サンビ教団

代表 **辻 秀彦**



広島市内には、6つの川が流れている。主流は、中国山地にある冠山を水源とする太田川である。その源流は100km上流にある。そこに様々な支流が流れ込み大河となって広島市内に流れてきている。源流だけの水量では絶対に大河になることはない。途中でダムのようなものがあって水をため、一挙に放水するなら一時的に大水となりえるが、いつまでも続かない。

エゼキエルが見た川は不思議な川である。流れ行く先に行けば行くほど源流の水量よりも多くなっている。どこからも支流が流れ込んでいないにもかかわらず。流れれば流れるほど増えていく不思議さ。まるで、5つのパンと2匹の魚を主が祝福して5000人の人を養い、余ったものを集めると12かごにいっぱい余ったようにである。ことわざの「塵も積もれば山となる」というようなものではない。またエリヤになけなしのパンを焼いたやもめの親子が、からの器を借りてきて、それに油を注ぎ続け、器がなくなると油もピタリと止んでしまったことも思い出す。

流れれば流れるほど、分ければ分けるほど、器があればあるほど、少量のものが限りなく増え続け広がり続ける。これは一体何を意味しているのだろうか。まるで「なぜなぜ」の問題が与えられたように思える。神様は「なぜなぜ」がお好きなのかもしれない。私が思い浮かべることは、せいぜい、「CO₂」か「ゴミ」くらいのもの。この世の中、何かすればするほど、あまり良い物が出てこない。しかし、聖書には、水、パンと魚、油は増え続けた様子が記されているのである。



私には孫が二人いる。二人とも男の子である。この二児の母である私の長女は、毎日子育てに奮闘中でなんとなく疲れ気味のように見受けられる。ある日、多くの荷物を車から家に運び込まなければならぬ状況があった。不思議なことに、この幼子たちは小さな荷物よりも大きな荷物を運び始めたのである。そこで母親が「強いね」とほめると次は、自分の背丈よりも大きな荷物を運ぼうとしたのである。

心から流れ出るものがある。兄姉が、私の健康に気づかい、「祈っていますよ」と優しく声をかけてくれるだけでなく、からだに良いもの、元気になるものをと手渡してくれる。霊と心とからだのために、私のことをこれほど心にかけてくれている兄姉の心遣いに勝るものはない。新たな力が湧いてくるのを感じ、次のメッセージ準備に励むことができるのである。

エゼキエルが見た川は、神殿の祭壇が水源となっている。祭壇と言えはいけにえの血が流されたところである。罪の贖いのいけにとは、無論、イエス様の十字架である。祭壇であるイエス様の十字架から何が流れているのだろうか。

十二使徒であるヨハネは、イエス様の心に近い弟子であった。彼は、イエス様の十字架である罪の贖いの姿を目の前で目撃した唯一の使徒である。彼はこう語っている、

『私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物として御子を遣わされました。ここに愛があるのです。』(第一ヨハネ 4：10)

祭壇には神の愛があるというのである。その祭壇から流れてくる水とは、いのちの水、みことばの水、聖霊の水である。これらの水は愛から流れ出ていることになる。

愛が源流となって広がっていくところでは、みな生きるのである。そして、流れ続けて行けば行くほどますます広がっていく。孫たちの内に注がれている愛のように。兄姉の牧師への愛の配慮のように。この愛の広がり、今、この世の中にも感じられる。キリスト教が広がるのではなく、祭壇から流れる神の愛がすべての人に流れ広がって来ているのではないだろうか。愛の広がり流れに乗っていきたく、川が多い広島街に主が遣わして下さったことを深く感じ入る今日このごろである。



ひろがる

日本ベテルミッション

会長 津坂 良夫



私たち「日本ベテルミッション」は2014年にJPCに加盟させていただきましたので、今回は、日本ベテルミッションの歴史を振り返り「ひろがる」をテーマにお話したいと思います。

さて、日本ベテルミッションは、アメリカのワシントン州シアトルにあったベテル・テンプルより派遣された宣教師たちによって開拓、設立された教会の自治と独立を尊重し、交わりと協力援助を目的として1992年2月5日に設立されました。以来23年間にわたり細く長い交わりが継続されてきました。この期間、私たちは日本ベテルミッションの存在を明らかにして、日本におけるベテル・テンプルの宣教の働きを継続しています。しかし残念ながら、シアトルにあったベテル・テンプルは2003年にシアトルにあるシティ・チャーチに吸収合併することで90年の歴史を閉じています。

1914年に始まった、ベテル・テンプルの使命は、創立者 W.H. オフラー師に与えられたビジョン「宣教のスピリットは教会の使命」に基づき、「国内宣教」よりも「海外宣教」に重点を置いた働きをしていました。それゆえ、この教会はアメリカ国内宣教よりも海外宣教に対する情熱に燃え、全力を投入して宣教した教会であると言えます。その結果、1教会が世界25カ国に75名の宣教師たちを派遣しました。

ところが、W.H. オフラー師は団体を形成すること望まず、派遣された宣教師たちが「地元扎根ず」教会を願っていました。そこで、宣教師たちは、それぞれが教団に属するか、あるいは母教会との関係を保ちつつ単立教会として存続していくのかを決定したようです。そのためベテル・テンプルから出身した宣教師たちは、世界的な広がりをもって宣教地に赴きました。

現在までわかる範囲では、アメリカのワシントン州を中心に、インドネシア、オランダ、日本にその宣教の広がりを見ることができます。日本では、最初に来日した宣教師はメリー・テイラー師で、1950年に東京の瑞穂町に来日しています。以後、6家族の宣教師が東京の瑞穂町、福生市に派遣され、教会を建て上げました。また九州の福岡県の久留米市に1家族、続いて福岡県宗像市に1家族が主の召しに応じて派遣されてきました。彼らはベテル・テンプルの出身ですが、それぞれが宣教師としての召しを受け、宣教地に赴いています。このような理由から、ベテル・テンプルの諸教会は、戦略的にではなく、広がりをもって日本各地に形成され、「地元扎根ず教会」として建て上げられてきました。

現在、北は、岩手県陸前高田市や花巻市、東京は瑞穂町、福生市、あきる野市、兵庫県神戸市、福岡県では久留米市、宗像市にベテル・テンプルとの関わりがある教会が存在しています。この中で日本ベテルミッションに属している教会は4教会です。日本ベテルミッションの諸教会は、日本各地に点々として存在しているので、交わりをいかにして保つのが課題となっていますが、数年前から私たちのグループも、同じベテルの群れとしての協力と交わりを自発的に広げるようになって来ました。またそれぞれの教会では、世代交代の時期を迎えており、これから更に「ひろがる」ことを、主に期待しています。



ひろがる

単立ペンテコステ教会フェローシップ

岐阜純福音教会 主任牧師 **小山 大三**

「イエスは彼らに言われた。『さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。わたしは、そのために出てきたのだから。』」

マルコ1章38節

人口約206万人の岐阜県には、カトリック教会を含め現在92の教会がありますが、プロテスタント教会の信者数は約3500人です（実際の礼拝出席者は2500人以下です）。28年前に、各務原市（かかみがはらし）にある岐阜純福音教会に赴任する前に主に祈ったところ、岐阜純福音教会が教会を生み出す働きをすることが御心であることを示されました。以来、少しでも岐阜県の各地に福音を伝えたいという願いと祈りに主が答えてくださり、不思議な主の導きにより徐々に枝教会が増え、現在は本教会以外に五つの場所で伝道と礼拝をするよう導かれています。その経緯を以下にお分かちしたいと思います。

米国シアトル市にあるフィラデルフィア教会から派遣されたピーター・ボルゲ宣教師夫妻が各務原に最初に足を踏み入れ、小さな教会堂を立てられたのが1957年のことでした。神の恵みにより、信徒が増し加えられ、1970年には100名近くを収容できる新会堂が献堂されました。



岐阜純福音白鳥教会

1973年には、教会が全く無い奥美濃地方への伝道へと主が導いてくださいました。それは、各務原市にある私たちの教会に、北に約70キロ離れた所にある郡上市白鳥町から一人の姉妹が列車でやって来るようになったことがきっかけでした。1980年には岐阜純福音白鳥教会を献堂することができました。

教会が30周年を迎えた1987年、ボルゲ師夫妻は近い将来における引退を決意し、神奈川県横須賀市において横須賀クリスチャンセンターの看板を掲げて開拓伝道8年目だった私たち夫婦を招聘（しょうへい）されました。また、この年、神は200名を収容できる第3番目の新会堂献堂へと岐阜純福音教会を導いてくださいました。



岐阜純福音教会

神がさらに神の国の拡大を与えて下さるよう祈っていたところ、1993年に岐阜純福音養老教会設立へと導いてくださいました。M兄のご両親が救われ、家庭集会を月に1回土曜日の夜に始めたことがきっかけでした。

1997年には、各務原市から東に約25キロ離れた所にある可児市大森に岐阜純福音大森チャーチを設立するよう導いてくださいました。献身的な信徒の T 姉がご主人の協力を得て、以前の家に隣接したところに小さなチャペルを建ててすでに伝道しておられたのですが、協力依頼を受けて始めたものです。



岐阜純福音大森チャーチ



美濃グレースチャーチ

教会のなかった美濃市での開拓伝道のために祈っていたところ、2005年に、韓国キャンパス・クルセードの協力により、辛海雄（シン・ヘウン）宣教師が協力宣教師として派遣されてきました。2010年に辛宣教師が関西聖書学院を卒業されてからは、家族で地元に住んでの伝道が始まりました。2011年には会堂が備えられ、岐阜純福音教会の枝教会として、美濃グレースチャーチと命名して、辛先生主導の下、伝道と教会形成が推進されています。

2007年11月に、各務原市から西に約20キロの所に大垣インターナショナル・フルゴスペル・チャーチを開所するよう主に導かれました（将来性を考え、養老教会は閉鎖して合流しました）。

本教会に熱心に集っていた日系ブラジル人の T 兄家族が仕事のために大垣市に引っ越すことになったことをきっかけにスタートしたものです。市の会館の一室を借りて伝道してきましたが、最近、市内の結婚式用チャペルを借りることができるようになりました。現在、ブラジル人を中心に南米の方々、日本人、フィリピン人、韓国人の方々が集っています。



大垣インターナショナル・フルゴスペル・チャーチ

昨年2月に、本教会から車で15分くらいの所ですが、岐阜ライフチャーチの開所式を持つことができました。以前から開拓の思いが与えられていた O 兄姉が岐阜市に新居を建てた時、主に励まされて14畳の広さの礼拝室を造り、ここを拠点に伝道を始めたのです。第一聖日は本教会に集い、他の聖日は O 姉が責任を持つかたちで進めています。



岐阜ライフチャーチ

白鳥教会、大森チャーチ、大垣インターナショナル・フルゴスペル・チャーチには、私は聖餐式などのため、月に1回か、2カ月に1回そこに出かけて奉仕します。その他に、協力宣教師、副牧師、長老たちが、交代でメッセージに出かけ、信徒リーダーは、月に2~3回メッセージをしています。美濃グレースチャーチ以外は信徒リーダーが責任を負っているので経済的負担が少なく、会計はそれぞれ独立して運営しています。枝教会が枝教会を生み出せるようになった時が、本教会としての役割を全うできた時だと考えています。

広がる

神の家族キリスト教会

名古屋グリーンキリストチャーチ 牧師 **加納 久永**



2008年の春、私が早天祈祷をしている時に神様が一つの幻を見せて下さいました。その幻とは、とても綺麗な水面が見え、そこに水滴が一つ上から落ちてきました。すると、その所を中心に波紋がどんどんと外側に広がって行くというものでした。その時私は、「神様の力があれば、それがどんどんと広がっていくのだな。それが早く日本の上に起こるといいな。それが欲しい、必要だ。」と強く感じました。

それからしばらくして、タンザニアに宣教に行く恵みに与りました。2010年より2014年までの間で4回タンザニアのジョセファットガジマ牧師のタンザニア栄光キリスト教会に行く機会が与えられました。そのガジマ先生の教会は、行く度にメンバーの数が増えています。始めて行った時にはすでに2万6千人、2回目は4万人超、2回目は8万人超、4回目には10万人を超えていました。訪れるたびに驚かされ、人数が多く人が入れないので、礼拝はとても大きなグラウンドで、露天でなされていました。私が一番インパクトを受けたのは、2013年に訪問した時のことでした。とても大きな伝道集会があり、「問題がある人は教会に来なさい。」と言う呼びかけで、いつもより2万人の未信者の方々が集まっていました。ガジマ先生が「皆さんのどんな問題でも、イエス様によって解決し、全てが回復します」、「その為にイエス様を救い主として受け入れましょう」とメッセージが力強くなされ、救いの招きがなされました。その時、何と1回の招きで推測ですが3千人弱の方がイエス様を信じ受け入れました。その後、足の不自由な方の為に癒しの祈りがあり、そういう方が50人ほど集まり、全ての方が歩けるようになり、必要なくなった松葉杖などの補助具を、教会の牧師が束にして抱えて喜んで踊る姿を今でもはっきりと覚えています。使徒の働きに書かれている通りで本当に驚きました。

私は「これが教会のすべき働きだ。」と強い衝撃と感動を与えられ、とても大きなチャレンジですが、帰国後、教会で「私たちの教会に問題のある人が来るように。神様どんな人でも受け入れます。どうぞ送って下さい。」と言う祈りをするようになりました。すると本当に、問題のある方が沢山送られて来て、その方々の為に祈る度に、神様が働かれ、各々の問題が解決し、イエス様を信じ救われてきました。その祈りを始めて1年で、メンバーの数は3倍になりました。そして、その救われた方々の持つ、立場や能力、賜物、人脈などが神様の為に用いられるようになり、今までの私たちの教会には出来なかった事、無かった事、思いもよらなかった事が始まるようになりました。

その内の幾つかの例を挙げますと、沖縄県の小浜島にある、大きな宿泊施設を利用する事が出来るようになり、枝教会を興しその島の自然環境を用いてクリスチャンヒーリングセンターを始めようとしています。また NPO を設立し、この時代の人々の持つ様々な問題を改善する為に、解決の手助けが出来る窓口を設け、イエス様に繋げる事の出来るシステムを考えております。どんな人でも、神様に立ち帰るならば全てが回復し、神の御国の影響力が、その人を通し「広がる」という事を強く確信しております。あの時、はっきりと見させて頂いた幻のように、私の属する「神の家族キリスト教会」の先生方や、日本の神の教会を通し、主の影響力が日本全体に、そして全世界に広がる事を信じ、夢見て進んでいます。



小浜島

「御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。」

マタイ 6章10節

ひろがり

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

札幌レインボー・チャペル 牧師 **下道 定身**



20世紀初頭、カンザス州・トペカの一神学校に注がれた聖霊の雨は、ロサンゼルス・アズサ街に、そして瞬く間に世界に広がっていった。その流れの中で米国アッセンブリー教団が創立され、そこから100年という短期間の中で、今日、世界のアッセンブリー教団に属する教会数は36万6千、信徒数は6,750万人と広がっている。まさに聖霊による恵みの御業という他はない。

私たち日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団は、1949年に誕生した。実に13教会からスタートし、創立66年を経て、国内47都道府県のすべての県庁所在地をはじめ北海道から沖縄までの各地に217の教会（伝道所を含）、431名の教職（引退教師を含）、4組の宣教師を有する教団として前進を続けている。

当教団の現在の取り組みとしては、2008年度からの5年間にわたって「宣教力UP!」をスローガンに掲げ、〈あらゆる賜物を用いて、何とかして、幾人かでも〉と、宣教力の回復と拡大に力を注いできた。また2011年3月11日の東日本大震災の経験を通して、2013年度からは新たに「御霊による輪、愛の広がり」の標語の下、昨年は〈御霊と親しく交わり、みこころを行う〉、本年は〈さらに油注がれ、さらに力を受ける〉を副題として、教団を挙げて更なる広がりに向っての祈りに励んでいる。「御霊による輪、愛の広がり」の具体的な施策として、特に以下の6つの取り組みに力を注いでいる。

① 教会の再生プラン（通称：ビルド・アップ・プロジェクト）の実施・・・

長期間、苦闘の中にある全国からの4教会の再生プランを、当該教会教職と各担当コーディネーターで作成し、教団を挙げて祈りと財的支援を3年間、集中的に実施し、モデルケースを目指して取り組んでいる

② 姉妹教会制度（通称：パートナーシップ教会制度）の実施・・・

姉妹教会の関係からお互いの教会と教会を結ぶパートナーシップとして、共に成長を目指す関係作りを行う。

③ 教職ケア室の設置・・・

現任教職のメンタル・サポートや福利、及び引退教職へのケアを検討するために「教職ケア室」を設け、実情に応じた支援を開始する。

④ 本部施設将来構想の検討・・・

教団本部棟、神学校教室等の老朽化が進み、現在これらを含めての本部施設将来構想委員会で検討を進めている。

⑤ 信徒の活用及び登用・・・

教団内には様々な賜物を有し、献身的に主に仕えている信徒がおられる。中央聖書神学校（CBC）通信科に「教会献身者コース」も新設され、今後ますます信徒の活用、登用の可能性と仕組みを考える。

⑥ 出版事業の再開・・・

一時、凍結されていた出版事業の再開に向って、教団規則の変更や諸条件の整備にあたっている。

教団を挙げて祈り、取り組んでいるところである。更なる「ひろがり」を求めて。

広がり

日本オープンバイブル教団

代表 **菅原 亘**



キリストのビジョン「世界への拡大」

マタイ福音書28章19節には「あらゆる国のの人々を弟子とせよ」、マルコ福音書16章15節には「全世界に出て行って、すべての造られた者に福音を宣べ伝えよ」と命じています。キリストの教えと救いは最初から世界大のビジョンが描かれていたのです。しかしグローバルビジョンの足かせになっていたのが旧約聖書のモーセの律法であり、タルムード（律法を拡大解釈した実用書）であったのです。

ユダヤ人から異邦人世界へ

弟子たちの活躍によりキリスト教がユダヤ世界から異邦人世界に拡大して行きました。そこで新たな問題が教会内に起こりました。モーセの律法やタルムードを異邦人にも守るように教えるべきか否か、での問題解決のために使徒の働き15章でのエルサレム会議とつながって行きました。そこでの結論はユダヤ人キリスト者と異邦人キリスト者の対立を回避させるために、会議の結論としてヤコブやペテロたちは「モーセの律法からの解放を宣言しました」偶像に備えた物と不品行と絞め殺したものと血とを避けるように4つのことだけを守っておれば良いとしたのです。これはモーセ以来1500年間継承されていた伝統を打ち破る革命的な宗教改革であります。しかしこの勇断こそが、キリスト教が世界宗教として拡がって行った最大の理由です。教会の指導者たちもほとんどは弟子たちとユダヤ人キリスト者たちでしたが、やがて教会の中心はエルサレム第一教会からアンテオケ宣教教会へと変改して行きます。モーセの律法遵守にこだわったユダヤ人指導者たちは、教会内の指導的な立場を失い始め、異邦人クリスチャンたちが主流となって行くのです。

御霊による自由こそがカギである

パウロはガラテヤ書でユダヤ人キリスト者との対決に心血を注いでいたことが分かります。ユダヤ人指導者たちは異邦人にも「割礼を施すべきだ」と強く要求しましたが、パウロは体を張って論陣を展開し教会に御霊による自由をもたらします。ガラテヤ書には御霊による自由のほかにも御霊によって歩むこと、御霊に導かれて歩むこと、御霊によって生きること、御霊に導かれて進むこと、と御霊による自由を説いています。肉による歩みではなく、御霊による歩みこそが真の自由をもたらすのです。この信仰の自由こそキリスト教の拡大のカギとなります。私たち指導者は自らがどのような考え方、歩み、教えをしているかは現代における福音の拡大の鍵です。御霊による自由を説かないで信徒たち

に鍵をして部屋に閉じ込めてしまい、キリスト教を古い窮屈な過去の宗教にしてしまうのか、それとも御霊による自由の解放を宣言するのかのどちらかであります。御霊もイエス様も信仰による愛の自由の中に生きることを教えられ実践しました。安息日に病人を癒しました。安息日に麦畑の麦を口に入れました。弟子たちはイエス様のなさることを恐れと期待を込めて見つめていたに違いありません。「うちの先生は随分、大胆なことをなさるが、律法学者たちと論争にならないかなー」しかし、御霊によって歩いておられたイエス様に論争で打ち勝つパリサイ人たちはひとりもいませんでした。

メッセージがカギです、解放のメッセージが拡がりを実現します

現代の教会の中にも旧態依然とした律法的な教えをしていないか、自らのメッセージをチェックする必要があります。信徒を鍵で閉じ込めていないかどうかです。鍵を解放することが教会の拡大の源流となります。せっかく苦労して導いた信徒に新たな重荷を背負わせているとしているならば、聖書に登場するパリサイ人となら変わりありません。私たち指導者たちはいつもイエス様がなされたように解放のことば、解放の教えに焦点を合わせましょう。牧師たちの講壇から語られるメッセージで縛られていた心、疲れていた心が癒されて、解放されて、新しい信仰と希望と勇気を頂くように導きたいですね。イエス様は生活に疲れ、未来に希望を持っていなかったユダヤ人たちに「あなた方は世界の光です」と励まし、預言的な言葉を与えました。数年後にその通りに弟子たちは、聖霊を受けて福音を携えて出かけて行き福音は拡大し、世界の光となって行きましたね。熱い心、夢、未来志向、出来ると言う信仰、あきらめない信仰こそが、聖徒の心に拡がりをもたらせます。人間関係の拡がりとなり、福音拡大の拡がりとなって行きます。福音の拡大は、先ず牧師の心から始まるのです。

私たち教職こそ癒され、喜びにあふれ、解放されておらねばならないのです。その秘訣は御霊と共に歩むことにあります。

さあ、聖霊様と一緒に、この日本をキリストの身許に勝ち取って参りましょう。

エルサレムから地の果てまで

日本チャーチオブゴッド教団

湘南セントラルチャーチ 牧師 **伊藤 正登**



使徒1章8節のみことばには、聖霊の満たしによって力を受けた教会は、宣教の働きを広げていくことができるとあります。私たち日本チャーチオブゴッド教団も聖霊の力によって宣教の働きを少しずつ広げさせていただいておりますが、ここにその一部を分かち合わせていただけますことを感謝いたします。

宣教地のひろがり

2012年、私たちの教団は宣教60年を迎えました。そして、その年から新たに宣教の働きが首都圏から地方や海外へと広がり始めました。その一つは、東日本大震災後に教団で一致して支援チームを送って来た岩手県大槌町に地域支援センター「大槌ジョイフルハウス」を設立したことです。主の奇跡的な導きによって物件が与えられ、その後常駐する働き人も遣わされ、そこで国内外からの多くの方々やグループを迎えて様々な働きがなされてきました。今では毎週聖日礼拝が行われ、求道者も導かれ、昨年は受洗者も起こされたということは大きな喜びです。今年、その働きは新たな働き人に引き継がれ、教会として発展しつつあります。



宣教の働きのもう一つの広がりは、教団から中国宣教のビジョンと情熱に燃やされた教団教職者を中国に宣教師として遣わしたとい

うことです。不思議な導きによって働きの道が開かれ、現在、宣教師家族がチームとして現地の教会で奉仕し、多くの実を結び祝福となっています。心から主をほめたたえます。

国際的な交わりのひろがり

近年、日本に在留する外国人が増加の傾向にありますが、教会もその例外ではありません。湘南セントラルチャーチでは外国人に対する対応が早期からなされ、スペイン語礼拝、ポルトガル語礼拝、英語・タガログ語礼拝が持たれ様々な国の人々が集い、その特性を生かした国際色豊かな教会形成がなされています。また、東京ライトハウスチャーチではフィリピーノミニストリーが行われ、多くのフィリピン人たちが集い熱く礼拝をもっており、目覚ましい成長を遂げています。外国人たちの情熱的な信仰、フレンドリーで明るい性格や積極性は、内側指向になりがちな日本人たちに新たな刺激を与え、また外国人たちも日本人たちの真面目さや勤勉さという特性から学ぼうとしており、国際的な交わりは相乗効果を上げています。国籍、言語、習慣や考え方など互いの違いをむしろプラス要因として受容し、日本人も外国人も同じ御国の民として一つとなって教会を建て上げています。

会堂のひろがり

イザヤ54章2節に「あなたの天幕の場所を広げ」とありますが、今年、二つの教会が新たに会堂を広げることとなりました。一つは開拓からちょうど15年を迎えるライトハウス新宿チャーチです。これまで新宿という大都会の中でアグレッシブに伝道を繰り広げて来ましたが、新たな場所を祈りつつ探し求めていたところ、以前よりも広い場所が伝道の拠点として与えられました。ビルの一室を借りての働きですが、更なる働きの拡大と収穫を期待しています。もう一つの教会は40年前から千葉で伝道してきた千葉グレイスチャーチです。前任の牧師の開拓時代から千葉駅前での伝道をビジョンに掲げてきましたが、この度主の恵みによって、千葉駅近くの国道沿いに7階建てのビルが新たな会堂として与えられました。地理的にも建物的にも多くの可能性を秘めていて、これからの発展が楽しみです。

エルサレムで始まった聖霊による宣教の波は地の果てまでも広がっていきました。水面に幾重にも輪を描いて広がる波紋のように、聖霊の力によって宣教の働きを更に広げていきたいと願っています。

主がともに働いて拡大させてくださった

日本ネクスト・タウンズ・ミッション

全日本ローア福音教会 牧師 **牧野 正巳**



ハレルヤ、主イエス様の御名をあげ、賛美します。

私は幼い頃から難聴という障害を持つ者として苦しい経験を重ねる人生を歩みました。成長してもいつも平安がなく、些細なことでけんかを繰り返すという生活を送っていました。そんな私でしたが25歳の時に生まれて初めて聞いた十字架の福音を信じて救われ、全く新しい人生が始まりました。救われた喜びに感動し献身者となって教会に住みこみ、聖書の学びと訓練を受ける毎日を送るようになりました。

当時、私が仕えていた大阪の教会では健聴者のための一般礼拝とは別にローア者のための礼拝も持たれており、難聴者であった私も彼らのために重荷をもって奉仕をしていました。やがて名古屋のほうでも主を信じる数名のローア者が起こされ、毎週、大阪の教会から奉仕者が交代で名古屋に出かけて導いておりました。そんなある日、主は私に名古屋に移り住んで、その地のローア者に仕えるようにと導かれたのです。

何も考えずに素直に主に従い名古屋に移り住んで、すぐに自分が大変な決心をしてしまったと気づきました。「主よ、誰一人知る人もいないこの地で、頼りにできるものは何にもありません。集会に集う数名のローア者たちもまだ幼い信仰者です。私には学問もなければ、難聴のためにふつうに人と会話することさえ簡単なことではありません。どうすればよいのでしょうか」と、ただ主にすがり明けても暮れても祈らずにはおれませんでした。毎朝、たとえ雨の降る日もアパートの近くの神社の境内で声を上げて祈り続ける私に、ついに主は「私は必ずあなたに数多くの私の羊をまかせる。弟子となって仕える者たちを与える。心配しないでよい。十字架の言葉を語り続けなさい」と幻を示して語りかけてくださいました。

主に勇気づけられ、次々と紹介されたローア者たちを愛知県内はもとより遠くは静岡、長野、山梨、そして北陸地方の各県へと訪ねて行つては、出会わせてくださった人に福音を伝えて行きました。主は行く先々で耳の聞こえない人々を次々と救って下さいました。ただ聖霊に導かれて、従い続けた働きの中から時が過ぎて気がつくと、愛知、浜松、山梨、金沢、福井、富山、三重と各地に主を信じる者たちが起こされ、それぞれの地区で信じた者たちが責任を分担して礼拝がもたれるようになりました。その集まりは各地において今日も続けられています。ただ主に感謝します。

また、名古屋地域の信徒たちの数もどんどん増し加えられていきましたが、自前の集会所を持ちたくてもローア者たちということではなかなか思うような建物を借りることもできず、相変わらず公民館などの公共の集会所を多い時には一年に7ヶ所も転々と渡り歩くようにして礼拝を守っていました。しかし、いつでも自由に使える自分たちの礼拝と交わりの場所としての会堂をどうしても与えられたいという熱い願いが沸き起こり、多くの曲折を経て長い時間もかけましたが、ついに主は愛知県犬山市に450坪余の敷地と鉄筋三階建て336坪の建物を与えてくださいました。この時も私たちがローア者たちばかりの群れであるということのゆえに、なかなか不動産業者や金融機関の理解や信頼が得られず本当に苦労しました。障害者に対してまだまだ十分な理解のない時代でした。しかし、主はそんな私たちといつも共にあって、何度も折にかなった不思議な助けを与えてくださり不可能を可能としてくださいましたのです。

すべての栄光をただ主イエス様にのみお返し致します。



拡がる

日本フォースクエア福音教団

総理 **増井 義明**



不安定な世界情勢におけるこの終わりの時代にあつて、教会がキリストの体として希望の大宣教命令を全うする為に立ち上がる時が来ていると心から信じます。私たち教会が全てを懸けて行う命令を実のあるものとして実践していく為には、私たちは様々な分野で「拡がり」「拡げられる」という変化が必要とされていると思います。

私たち日本フォースクエア福音教団は、この4年間「トランフォーメーションチャーチ」というテーマのもとに、救いに必要な変化が教会、牧師、信徒に与えられるようにチャレンジを受けています。このテーマの根底にある一つの重要な課題は教会、ミニストリーそして人に対する視野を拡げていくことです。まずはイエス・キリストを知らない人にも神様の愛と救いの計画があるという揺るがない視野です。この視野を持って人を見る時に、その人がたとえどのような状況に置かれていようと、どれだけ福音から離れているように見えても続けて期待していく力となっていくと思います。

二つめの拡がり、イエス・キリストをまったく知らない人にとっても門の開かれている集まりとなっていくと云うものです。それはキリストが罪ある人の中で生活し共におられるために地上に来られたように、教会も救いを必要としている人々の近い存在になる努力をすることです（ピリピ3章）。これが二つめの「門の拡がり」です。教会がクリスチャンだけに馴染み易く、また心地よい場所ではなく、キリスト教、救いにまったく関係の無いような人たちにもできるだけ敷居を低くし、門を拡げていくのです。勿論、それはキリストの体としての聖さとキリストのメッセージを妥協することではありません。

教会の門を拡げるとは、教会として決して変えてはいけない部分と変えても良い部分、そして変えるべき部分を明確にすることから始まり、その答えによって人々にとって身近な存在として変わっていくことです。私たちが門を拡げる時、更に多くの人々がキリストの救いに導かれていくと信じます。また門を拡げると同時に狭めるものもあると思います。それは牧師や教会、信徒が余りにも多くの働きに関わり過ぎないことです。終わりの時が今であるというのであれば、イエスの再臨までに教会は「救いにこだわる」必要があるからです。ですから、私たちは教会と牧師の活動を見直し、それらの働きが救いに繋がるように計画し活動していこうとしています。

そして最後の拡がり「期待の拡がり」です。現在の日本における教会はなかなか成長していないことと、後継者がいないという現実があります。しかし私たちは、今一度神様に対する期待と信仰

を持ち直し、勇気を持ちつつ、多くの救いを信じ、変化を受け入れ、門を抜け、前進して行こうと教団として願っています。

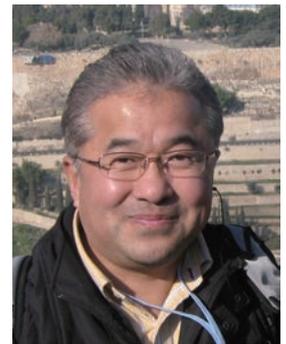


2014年度 日本フォースクエア福音教団大会 2014年6月24日 北浜インターナショナルバイブルチャーチ

ひろがる

シオン宣教団

代表 **辻本 眞悟**



ここ数年、私たちは教団の牧師会において、以前よりさらに熱くそれぞれの教会の次世代に対する祝福を願い多く話し合うようになったと思います。それはユース世代の救いと育成は元より、それに繋げる教会学校の充実、また次に主に献身していく新たな器のためにも教団として何ができるのか、また何が必要であり、目的を何に定めてどのように導いていくのかといったものです。それには教団として、しっかりとしたビジョンを掲げ、それぞれの教会の使命と連動しながらも、一致してどこへ向かおうとしているのかを明確にしていくことを最重要課題として祈っています。そして来年に教団設立30周年を迎えることをひとつの節目であり良き機会として捉えて、2015年の夏期聖会、2016年の五月聖会（教団設立30周年記念聖会）の目的・プログラムなどを企画しています。今年の夏期聖会のテーマは「ルーツから未来へ ― 神の家族の拡大 ― 」と題して行われる

ことが決定しており、3回のメッセージの担当を1回づつ教団牧師が務めます。第一聖会を「ルーツ～過去～」と銘打ち、自分たちは神からどういうアイデンティティーをいただき、どのような歴史と経緯、流れの中で召しと使命をいただいているのかをしっかりと認識することによって立つべき所と成すべきことを明確にしたいと思っています。また第二聖会ではアイデンティティーと使命の明確化を受け、テーマを「信仰者としての在り方～現在～」として、現在の教団、教会、個人の有り様を再びチェックしつつ、それぞれの「Being」を充実、確立していくことを願っています。そして第三聖会は「教団の目指すビジョン～未来へ～」と題して、「Doing」すなわち一致して共に祈り、共に学び励み、主に仕えていくための明確なビジョンと目標、またそれを実行していく新しい油注ぎを受けたということでもあります。

来年2016年の30周年記念聖会には、講師としてネクスト・タウンズ・ミッション（以下NTM）から2名の牧師をお迎えして行われる予定になっています。NTMは私たちの教団のルーツであるので、今年私たちが聖会において受ける恵みに加えて、来年その先生方より新たに知らなかった歴史や出来事も明らかにされるでしょうし、私たちの現在と未来についても同じアイデンティティーを持ちながらも、外からの観点や熟練した牧会経験や知識により良きアドバイスと祝福をいただけるものと大いに期待しております。

また冒頭にも書きましたユース世代や献身者のための祈りと応援ですが、ここ数年、1年に1度皆が集まる聖会の最後の日の献金はユースのために捧げられ、教団挙げて次世代のために一つとなって祈られるようになりました。そして毎年行われる教団ユースキャンプはユース自身が企画し会議を重ね、当日運営も自分たちで責任をもって成されるようになり、まずそれぞれの教会のユースたちが一致して一つのものを作り上げていく喜びを確立しつつあります。また大阪シオン教会のユースを中心にバルナバ・プロジェクトという働きが生まれ、国際飢餓対策機構の協力を得ながら、昨年よりフィリピンの被災地にユース自ら出向き、ユース自ら被災地の学校建設などの資金を集める活動し、自分たちでも力を合わせ共に祈るなら何かできるという信仰に熱く燃えている彼らの姿に、私たち多くの者が励ましと勇気を与えられています。今年3月にも彼らは2度目のフィリピン行きを遂行し、金沢からも2名のユースが参加させていただきましたが、この二人は数日間の滞在にもかかわらず大きく変えられて帰ってきました。彼らは礼拝でも証しに立ち、涙ながらに自分たちが恵まれていることと自分たちに足りないものと自分たちが今しなければならないことは「神を真剣に仰ぎ、神と人に愛をもって仕えていくです」と堂々と語る姿に、金沢の教会でも会衆一同が祝福を受けました。シオン宣教団のユースたちはいま最高に素晴らしい時を迎えようとしていることを感謝いたします。

また教団は度重なる話し合い、改訂を加えながら教団規則を作りあげました。それは、これから後続く献身者のためにも、しっかりとした教団を形成し確立していくために大切なことの一つとして考えたからです。わたしたちはこのように知恵を出し合いつつ歩む、まだまだ発展途上な小さな群れではありますが、教団として各地に次々と教会を建て上げていきたいというビジョンを掲げています。覚えてお祈りいただければ幸いに存じます。

ひろがる

日本ペンテコステ教団

代表役員 榮 義之



復活とともに春が来たような新年度です。生駒聖書学院卒業の4名を開拓伝道師として任命。東大阪市にエリムロー教会、丹後半島にマハナタイムキリスト教会、刑務所伝道と刑余者厚生に取り組みます。長野県茅野市にマハナタイムキリスト教会と断食祈禱院開設。現在開拓伝道中の福山市、熊本県や鹿児島市、沖縄でも計画中です。

「あなたがたは、『刈り入れ時が来るまでに、まだ四か月ある。』と言ってはいませんか。さあ、わたしの言うことを聞きなさい。目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。すでに、刈る者は報酬を受け、永遠のいのちに入れられる実を集めています。それは蒔く者と刈る者がともに喜ぶためです。」(ヨハネ 4：35-36)

海外宣教では、中国宣教では海南省や満州朝鮮族宣教と同時に、脱北者救済や孤児院にも支援を続けています。アフリカ宣教も、ケニアやタンザニアの孤児院や宣教支援中です。

主のことばの通りに、目を上げビジョンを持つとき、色づいて刈入れを待つばかりになっている、日本列島と世界の宣教の畑が広がっている時代です。

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。」(マタイ 9：37-38)

教団、各教会とも聖霊の能力を受けて、福音の広がりに取り組み、開拓伝道も祝され、教会成長もなされるよう、2015年も取り組みます。各教団に豊かな広がりをお祈りします。日本ペンテコステ教団のためにも、祈りのご支援をお願いいたします。



生駒聖書学院 チャペル



日本ペンテコステ協議会 総会雑感

日本ペンテコステ協議会

書記 佐藤 成紀



2014年11月27日（木）正午より、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団中央聖書神学校チャペルにて、日本ペンテコステ協議会総会が開催されました。11教団から、合わせて18名の出席がありました。

昼食と交わりの後、細井眞議長が挨拶をされ、永井信義副議長が賛美を導かれました。ディボーションのメッセージは、私・佐藤がさせていただきました。イザヤ書49章6節を開き、「自分では思いもよらない働きに遣わされることがある。どこに遣わされても忠実に仕え、主の栄光を反映させて行きたい」という内容でした。各教団の近況報告、前回議事録の承認、2014年度活動および会計報告承認の後、以下の2015年の活動計画について確認がありました。

日本ペンテコステ協議会研修会

日 時：2015年6月18日（木）11:00～16:00
場 所：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 中央聖書神学校チャペル
会 費：一人3,000円
プログラム：11:00～12:00 礼拝 説教：津坂良夫師
12:00～13:30 昼食
13:30～16:00 講演 テーマ：「広がる」 講師：千田次郎師

日本ペンテコステ協議会総会

日 時：2015年11月26日（木）12:00～16:00
場 所：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団理事室（人数により変更あり）

JPCニュースの作成手順について確認がなされ、またJPCに異端等の情報提供を期待するとの意見がありました。

2015年度予算については、ペンテコステ世界大会（PWC）に向け積立金を準備するとの説明がありました。その他、財政健全化のために積極的な提案があり、建設的な議論の末、2015年度の計画と予算案は満場一致で承認されました。

また監事に関する新規則案も承認され、日本チャーチオブゴッド教団の伊藤正登師が監事に選任されました。

その他、翌日開催予定の日本ペンテコステ・ネットワーク（JPN）懇親会や2015年に開催されるビル・ジョンソン師集会、日本ペンテコステ親交会（JPF）50回記念大会、エンパワード21エルサレム大会、祈りの祭典、セレブレーション・オブ・ラブ等の案内がありました。総会は、最後に祈りをもって終了しました。

日本ペンテコステ協議会規約

1) 本会は、名称を『日本ペンテコステ協議会』(Japan Pentecostal Council 略称 JPC) とする。

2) 事務局

本協議会の事務局を日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部に置く。

3) 目的

本協議会の目的は、日本におけるペンテコステ信仰の健全な成長と発展を促進するために、ペンテコステの教団及び教団に準ずるグループの指導者・教職者間における交流を深め、情報交換及び相互理解を図り、教職研修を行うことにある。

4) 信仰宣言

本協議会の構成員は、以下の信仰宣言を告白するものとする。

1. わたしたちは、聖書が靈感された、唯一の誤りのない権威ある神の言葉であることを信じる。
2. わたしたちは、父と子と聖霊の三位において永遠に存在される唯一の神を信じる。
3. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストの神性、処女降誕、罪のない生涯、奇跡、十字架の血による代償的贖罪の犠牲、肉体をもつての復活、父の右の座への高挙、また、力と栄光の中での再臨を信じる。
4. わたしたちは、失われた罪人のためには、みことばと聖霊による新生が不可欠であると信じる。
5. わたしたちは、異言の証拠を伴う聖霊のバプテスマを信じる。
6. わたしたちは、聖霊の今日的働きによる肉体の癒し、および種々の聖霊の賜物を信じる。
7. わたしたちは、聖霊の内在によって清い敬虔な生活が可能となることを信じる。
8. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストにおける信者の霊的一致を信じる。
9. わたしたちは、聖徒の復活、失われた者の審判、新天新地を信じる。

5) 活動

定期的に会議を開催し、各教団及びグループの指導者・教職者間の交流、意見・情報の交換、研修その他必要な活動を行う。広報誌と機関誌を発行する。

6) 総会

本協議会は最高議決機関として総会を置く。総会は、加盟教団にそれぞれの教会数に応じて割り当てられた数の代議員によって構成する。

50 教会以下	代議員 1 名
51 ~ 100 教会	代議員 2 名
101 教会以上	代議員 3 名

7) 役員

本協議会に議長、副議長、書記、会計を置き、その任期を 3 年とする。役員会は議長によって召集され、定期的に開催する。

8) 監事

本協議会に監事を置き、その任期は役員任期に準ずる。

9) 経費

本協議会の経費は、加入団体の負担とする。

10) 附則

本規約は、1998 年 5 月 29 日より実施する。この規約の変更は総会の議決を経て実施する。本規約は、2003 年 3 月 25 日および 2014 年 11 月 27 日に改正された。

日本ペンテコステ協議会 加盟団体一覧 (2015年5月現在)

- ◆ **日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団** 教団本部 〒170-0003
理事長 細井 眞 東京都豊島区駒込 3-15-20
Tel. 03-3918-5935 Fax. 03-3918-0474
- ◆ **日本ネクスト・タウンズ・ミッション** 鈴鹿キリスト福音教会 〒513-0035
代表 岩井 繁信 三重県鈴鹿市矢橋町 4-7-1-2
Tel. 059-383-5145 Fax. 059-369-2424
- ◆ **単立ペンテコステ教会フェローシップ** 御殿場純福音教会 〒412-0024
代表 中見 透 静岡県御殿場市東山 7-1-1-2
Tel. 0550-82-2872 Fax. 0550-82-7233
- ◆ **日本オープンバイブル教団** 神戸キリスト栄光教会 〒653-0845
代表 菅原 亘 兵庫県神戸市長田区戸崎通 3-9-1-2
Tel. 078-612-5511 Fax. 078-621-5513
- ◆ **シオン宣教団** 金沢グレイスチャペル 〒920-0816
代表 辻本 眞悟 石川県金沢市山の上町 2-6-4-8
Tel & Fax. 076-253-1790
- ◆ **イエス・キリスト福音の群** 東北中央教会 〒981-3604
代表 永井 信義 宮城県黒川郡大衡村駒場 ゴスペルタウン
Tel. 022-345-2991 Fax. 022-345-2992
- ◆ **日本ペンテコステ教団** 生駒聖書学院 〒630-0243
代表役員 榮 義之 奈良県生駒市俵口町 9-5-1
Tel & Fax. 0743-74-7622
- ◆ **神の家族キリスト教会** クリスチャンライフ 〒464-0094
代表 水野 明廣 愛知県名古屋市長種区赤坂町 4-6-4
Tel. 052-721-7831 Fax. 052-721-7625
- ◆ **日本フォースクエア福音教団** ホープチャペル所沢 〒359-1125
総理 増井 義明 埼玉県所沢市南住吉 1-0-8
Tel. 04-2923-1858 Fax. 04-2922-7716
- ◆ **日本チャーチオブゴッド教団** 東京ライトハウスチャーチ 〒146-0093
監督 八束 選也 東京都大田区矢口 2-1-1-8
Tel. 03-3758-1625 Fax. 03-3758-1647
- ◆ **サンビ教団** ジーザスフェローシップ広島 〒730-0812
代表 辻 秀彦 広島県広島市中区 1-4-8
Tel. 082-241-8957 Fax. 082-247-1574
- ◆ **日本ベテルミッション** 福生ベテル教会 〒197-0003
会長 津坂 良夫 東京都福生市熊川 1-1-0-1
Tel & Fax. 042-551-1327